

## ブリティッシュ アメリカン タバコ ADR(BTI)

【セクター】 生活必需品

【市場】 NYSE

## 【企業概要】

英国のロンドンに本社を置くタバコメーカーで、フィリップモリスインターナショナルに次ぐ世界第2位の規模です（中国タバコを除く）。1902年に英国のインペリアル・タバコと米国のアメリカン・タバコ・カンパニーの合併事業として設立された会社で、17年1月には米国のタバコ業界2位のR.J.レイノルズ・タバコを買収しています。主力製品は、タバコでは「Dunhill」「Kent」「Camel」「Lucky Strike」など、次世代製品では、加熱式タバコで「glo」、電子タバコ（ペーパー）で「vype」「vuse」などを擁します。

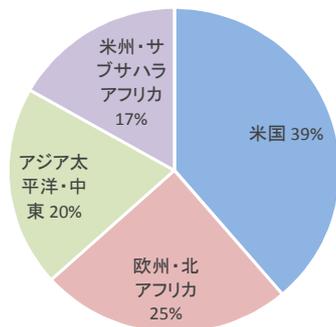
【業績】（単位：売上、純利益は百万ポンド、EPS、DPS、BPSはポンド、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	19,564	5,581	2.72	1.95	26.5	108.7	43.2
18年12月期	24,492	6,286	2.74	2.03	28.5	9.6	44.9
19年12月期予想	25,802	7,324	3.22	2.11	29.4	10.7	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

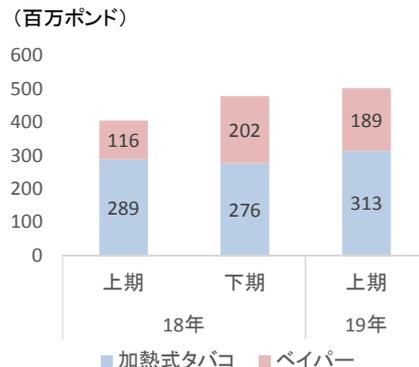
## 【主要指標】

図表1 地域別売上構成（18年12月期）



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 加熱式タバコとペーパーの売上



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

## 【会社の見方】

紙巻きタバコの世界シェア（中国タバコを含む本数ベース）は、13年にはフィリップモリスインターナショナルの14.4%に対して同社が10.6%と差が開いていましたが、R.J.レイノルズ・タバコを買収効果で18年には13.9%に対して12.2%とかなり近づいています。加熱式タバコやペーパーなど新しい形の商品の展開には会社の規模も重要と考えられますので、ハンディを縮めて闘える状態を整えてきたと言えます。

## 【見通し・注目点】

19年1-6月期は、販売数量（紙巻きタバコと加熱式タバコの合計）が前年同期比3.5%減となりましたが、価格とミックスが7.0%ポイント（プレミアムブランドの販売が増加）のプラスに寄与、ポンド安が1.2%ポイントの押し上げ要因となって増収を確保しています。増収効果を受けて営業利益は同8%増でした。普及に注力している次世代製品は、売上が5.5億ポンドで構成比は4.5%まで上昇しています。電子タバコが前年同期比63%増、加熱式タバコが同8%増です。普及期のため機器売上の影響を受けて伸び率は変動しますが、基調を示すと見られるペーパーの消耗品数量は同32%増、加熱式タバコの消耗品（ヒートスティック）数量は同17%増です。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/8/21)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。